

大谷石 がつないだ石のまち うつのみや

大谷石は、柔らかく温かみのある独特的の質感を生かし、多くの人たちに親しまれています。また、大谷地域は、市内北西部に位置し、大谷石の産地として知られ、日本遺産にも認定された「大谷石文化」が息づくエリアです。大谷の魅力を再発見しませんか。

問 大谷振興室 ☎ (632) 2455

大谷地区は、大谷石を軸に成長してきた地域であり、現在も大谷の採石が続いている。採石の歴史は、古くは古墳時代までさかのぼり、明治時代から本格的な産業として発展していきました。また、昭和30年代ごろから、大谷石の岩壁など独特な景観を生かした観光業も盛んになり、昭和56年には年間約120万人が大谷地区を訪れています。しかし、大谷石の需要が減少し、さらに、平成元年の大谷石採取場跡地の陥没の影響を受け、観光業も衰退していました。

本市では、地域の皆さんと一緒に、「大谷ならでは」の地域資源を活用した大谷地区の活性化や、大谷地区の安全・安心の確保に向けた取り組みを進めています。こうした取り組みの成果もあり、平成18年には約17万人まで落ち込んでいた観光客数も令和6年には90万人を超えるまで回復しました。大谷石の魅力を軸としたまちのにぎわいが増しています。

変わりゆく 大谷

大谷地区は、大谷石を軸に成長してきた地域であり、現在も大谷の採石が続いている。採石の歴史は、古くは古墳時代までさかのぼり、明治時代から本格的な産業として発展していきました。また、昭和30年代ごろから、大谷石の岩壁など独特な景観を生かした観光業も盛んになり、昭和56年には年間約120万人が大谷地区を訪れています。しかし、大谷石の需要が減少し、さらに、平成元年の大谷石採取場跡地の陥没の影響を受け、観光業も衰退していました。

大谷地区は、大谷石を軸に成長してきた地域であり、現在も大谷の採石が続いている。採石の歴史は、古くは古墳時代までさかのぼり、明治時代から本格的な産業として発展していきました。また、昭和30年代ごろから、大谷石の岩壁など独特な景観を生かした観光業も盛んになりました。しかし、大谷石の需要が減少し、さらに、平成元年の大谷石採取場跡地の陥没の影響を受け、観光業も衰退していました。

大谷のこれまで

第25回 フェスタ in 大谷を開催します

ID 1007234

■通常イベント

- ▼期間 2月7~23日。
- ▼会場 大谷地域内の飲食店、物販店など。
- ▼内容 2つ集めると素敵な景品がもらえるスタンプラリーを開催します。また、イベント期間中、大谷の飲食店では小説「百年厨房」に登場するメニューをアレンジして販売します。各店自慢の一押しメニューも、今後100年続く「未来の百年厨房メニュー」として販売します。



■メインイベント

- ▼期日 2月22日(日)。
- ▼会場 大谷公園(大谷町)、大谷コネクト(大谷町)。
- ▼内容 大谷バブルショー、文化体験・交流イベント(講演会、竹細工、石切り体験など)、大谷マルシェ、大谷石あかり・竹あかりライトアップ。
- その他 2月22日には、北西部地域の人気観光地を巡るバスも無料で運行しています。ろまんちっく村を起点に、大谷資料館と若山農場を行き来できますので、ぜひご利用ください。

問 大谷石材協同組合 ☎ (652) 0924、フェスタ in 大谷実行委員(観光MICC推進課) ☎ (632) 2456

TOPIC

大谷石の豆知識

Q 大谷石とは?

A 今からおよそ1,500万年前の火山噴出により堆積した凝灰岩で、宇都宮の北西・大谷地区周辺で産出されることから、通称、大谷石と言われています。

Q 大谷石の特徴

A 軽くて柔らかく、多くの孔や細かい粒、不規則な斑点などが見られ、ざらざらして粉っぽいです。また、「ミソ」と呼ばれる黒や茶色の斑点が最大の特徴です。





大谷の魅力を再発見しよう

TOPIC

日本遺産に認定

- 2018年、本市の歴史文化を代表する大谷石文化のストーリーが日本遺産に認定されました。大谷石と大谷の文化の魅力が世界に発信されるようになりました。



大谷グランド・センター

昭和期に入浴や食事を楽しめる場として親しまれてきた建物が、新たに「食とアート」の複合施設として2026年1月に生まれ変わりました。



大谷グランド・センター

平和観音

大谷コネクト

大谷街道

至 鹿沼

大谷寺

天然の岩に包まれた
美しい景観のお寺です

至 宇都宮

大谷コネクト

観光周遊拠点として2023年11月に誕生し、敷地内には、観光スポット・イベント情報を提供している「ビジターセンター」の他、国登録有形文化財を移設・復元した「旧大谷公会堂」もあります。



▲旧大谷公会堂

- 大谷コネクトでは、さまざまなイベントが開催されています。
- ▼3月 8日(日) 大谷鍋まつり。
 - ▼3月20日(金) スプリングフェスタ。
 - ▼3月28日(土) 映画「石山の唄」上演会。
石の里大谷徒步ツアー。

詳しくは
こちらから



▲大谷コネクトHP

大谷資料館

広さ2万平方メートル、深さ30mにも及ぶ迷宮で、大谷石の歴史を伝えることはもちろん、その唯一無二の巨大空間を使って、映画や映像作品の撮影、コンサートなども行われています。



元気炉
大谷資料館

大谷觀音

大谷寺の本尊であり、最新の研究では奈良時代後半に彫られたと考えられています。国の重要文化財・特別史跡であり、日本遺産構成文化財の1つです。



▲大谷寺



平和觀音

採石場跡地の岩壁に掘られた27mの大きな觀音様です。1948年より6年余の歳月をかけて、すべて手彫りで造られました。





大谷の文化的景観を知ろう

ID 1036090

問文化都市推進課 (632) 2766

大谷石 がつないだ石のまち
うつのみや

文化的景観とは、そこで暮らしてきた人々の生活やなりわいと、気候や地質などの風土によって作られた景観地のことを指し、その中でも他に例を見ない独特なものとして国が選定したものが重要文化的

景観です。2024年10月11日に、大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観が国の重要文化的景観に選定され、28カ所がこの景観の価値を示す重要な構成要素となっています。今回は、その一部を紹介します。



詳しくは、
こちらから
チェック！

自然の力でできた奇妙な形の
岩たちが創り出す景観



▲大谷の重要文化的景観エンブレム



大谷の奇岩群
こしじいわ
越路岩



天狗の
投げ石

大谷地域は、地域固有の自然環境である大谷石の岩盤が隆起する場所で、この越路岩は奇岩群の北の端に位置し、大谷寺背後の御止山とともに「陸の松島」を代表する奇岩として有名です。また、平成15年に国の名勝に指定されています。

大谷公園の入り口で、訪れた人々を出迎えてくれる不思議な形の岩です。

ここから南南東へ900m先にある、戸室山に住む怪力の天狗が投げた石が乗つてできたという伝説があります。

カネホン
採石場



現在も大谷石の採掘・加工を行っている採石場であり、採石を目的として成立了近代の産業システムが見られる場所です。採石場でありながら、ジップラインなどを体験することができ、さまざまなアクティビティを通して大谷石の魅力に触ることができます。



いなりやま
稻荷山

明治時代から昭和時代の初めにかけて、宇都宮石材軌道が経営する観光施設遊楽園が造られ、その後大谷石の採石場となりました。現在、採石は行われていませんが、石切跡や加工場跡が残っていることから当時の大谷石産業の様子が垣間見える貴重な場所です。